



「農村教会に遣わされて」

三春教会牧師 佐々木 威

神学校を終えた1952年、中部教区総会で補教師の准允式を受ける前夜、名古屋桜山教会の夕礼拝の奨励を依頼され、「悔い改めよ、天国は近づいた。主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ」の御言葉に導かれ、准允式に臨む気持ちを証した。数年後に正教師試験を受け、先輩の教師達から頭に手を置かれ、聖霊の注ぎを祈られて、按手礼を受け、牧師職を任じられ、主の愛する羊に仕えようとする志を燃やし続け、今まで支えて下さった主の愛に、深い感謝を捧げて来る事が出来ました。

今、63年間の伝道者の道筋を省みる時、主のみ前に報告するものが何もない事に身震いを感じています。大輪の開花の美しさはなく、暴風雨の嵐に苛まれて、ズタズタに傷つけられ見るに耐えない姿をさらして来たように悔いる事のみ浮かんできます。聖日の説き証を63年間語りかけ、主の宮を捧げ、幼稚園の園舎を移築し、数知れない行事を催して主の恵みを、愛を証し来たけれども、主のみ前に誇り得るものはなく、主よ、御許し下さいと祈る日々です。

神学生時代に、国立教会が一つ橋大学の学生寮で礼拝していた時、村田四郎牧師から、顔を合わす度に「勉強しろよ」と語りかける親父の厚情を思いつつ、教団常義員会で倒れた回復途上の赤石義明先生の牧する名古屋教会の伝道師として招かれました。

赤石先生は、東北学院大学の神学部の牧会学の教授を務めた大変几帳面で緻密な牧会をした先生でした。朝の礼拝出席平均384人を400人に、夕礼拝の98人を100人にしようと精魂を傾けていた大教会から、私は、会員3名の山形県寒河江市の開拓伝道に1956年に遣わされた。5年間で教会を自立させる特別伝道で、人口過疎の地方教会での開拓伝道は困難であった。

妊娠9ヶ月の妻と名古屋から赴任した時、1週間旅館で過ごした。教会で用意していた引揚者用の一部屋は、私の荷物で人の生活する余地が無かったからであった。牧師の住居と教会の集会に使用する家探しは、家主、お寺と相談しなければ、賃貸は出来なかった。寺と土蔵の蔵を借りて決着したかに見えたが、地主と小作人との格差があり、地主の家には、限られた人だけで、一般の人には閉ざされて来た関係が、礼拝への障害となっていた。

また、若妻達は、無報酬の労働力として扱われ、子育ての買い物すら、盆、暮れの実家に帰った時、親から小遣いを貰うか、或いは、お米を持ち出して物々交換して子どもに与えるしかない弱い存在で、公民館や学



筆者(記念誌より)

校との関わりだけが、唯一の開放される時間であった。

家賃の支払いに苦しんだ前任者の経験から、補助金が切れる前に教会を建設する計画を立て3年目に12,5坪の教会、牧師館を献堂した。家賃の心配は無くなったが、伝道の門戸はなかなか開かれなく、苦悩している時、市の教育長が訪れ、公民館の館長就任の依頼であった。それは、赴任して間もなく、市の連合婦人会の総会で1時間の講話をした時の昼食会に、会長である酒蔵会社の社長夫人から「牧師がこんな所へ来ると汚れるでしょう」と話し掛けられた。酒の無い食事にも関わらず、牧師への偏見を知らされ、土着人にならねばと暗示してくれた婦人会長が、私を中央公民館の館長に推薦されたからであった。教育委員会の課長も、5人の地区館長も僧侶、もう一人は校長退職者で、中央館長がキリスト教の牧師では上手く行かないだろうとの不安も出たが、1年だけやらせて見ようと決着したのでした。牧師を名乗って家庭訪問しても戸を開けて貰えず、八方ふさがりが、公民館活動や館長職が救いの門戸を開いて呉れた。次の年度には、僧侶全員が職を解かれ職員が常勤化し、私だけが非常勤職として7年間付き合わされた。館長職が色々な役職に発展して、どちらが利用したのか、利用されたのか。

教会が建設された場所は、果樹地帯の未開地域で、火災時には車の通れない危険地帯で7,5坪の礼拝堂が地域の集会所となり、40米のバイパス道と都市計画による住宅地を造る原動力となった。教会は、公園に隣接するように移転して、1階は保育室に、2階に礼拝室と牧師館を建て、午前中に献堂式、午後から東北教区総会が開かれ、祝福されたが、若い求道者は上京して帰らず、教会形成の苦渋は果てしなく続いています。教会堂が新しい内に後任者に託そうと、17年間の思い出を抱いて三春教会に移って45年になりました。

三春教会は、創立126年、幼稚園は、大正4年に開設され100周年を迎えた。幼稚園を開設した吉田牧師は10年、教会を改築した小針牧師は10年、他の21名の牧師は、1～2年の短期で三春を離れ兼務者となっていました。

就任の挨拶に行った花屋の夫人が「急いで仕事をしないでくれ、別れが辛くなるから」と言われて45年になる。朝10時から午後2時までしか日照時間の無い谷間の教会から、移転して25年、去る10月24、25日、農村伝道神学校の高柳富夫校長にお出で頂いて、合同の式典と感謝記念礼拝を捧げる事が出来て喜びと感謝に包まれて、新しい門出に旅立とうとしています。聖霊の導きを共に祈り下さい。(農伝2回生卒)

農伝とのかかわり

塩尻アイオナ教会牧師 横田幸子

90年代、農伝講師を担われた横田牧師に当時を振り返っていただきました。事務局

○キリスト教教育後期の授業で

90年代の始め頃、当時の校長だった高橋敬基さんから、「農伝のキリスト教教育後期の講師を引き受けてもらえないか」とお声を掛けられました。わたしとしては専門知識をみにつけておらず、不適當ですよと申し上げましたが、教会の子どもたちとかかわっているのだから、現場感覚があれば大丈夫（？）と言われて引き受けることになったのです。（その着想に心を動かされました）。

高橋校長退任後、下田洋一校長、君島洋三郎校長の数年間もの間続けさせていただきました。評議委員の役割と共に。

大方の学生さんには迷惑だったかも知れません。何しろ素人の上にユニークな持論をもっていたものですから。持論というのは、子どもといえども礼拝参加者の視点をもっていたということです。当時わたしの仕えていた教会では、不登校の子どもが少なからずいたため「教会学校」の呼称をやめて、子ども礼拝、ティーンズ礼拝とし、大人の朝礼拝、夕礼拝（全て日曜日）の一つとしてそれぞれの礼拝を位置づけておりました。

礼拝には教育的側面もありますが“点数”をつけるような発想は馴染みません。どうしたら楽しく、心ある礼拝を持てるかを中心に据えての授業です。テストなし、代りに児童文学書や絵本のいくつかを提示して、感想文を書いていただくことにしました。

子どもを知るには、児童文学書が大きな助けになります。これは、大人向けの説教作りにも役立ちます。聖書の行間を読み取るには想像力が必要です。何と云っても、イエスのたとえ話を聞く人や5,000人の人の供食には子どもも加わっていたのです。子どもを退ける弟子たちに対するイエスは、率直に子どもの存在をないがしろにしているのです。叱責せずにはおれない。「はっきり言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」（子どもを受け入れる人でなければ、決して神の国に入ることはできない。一文法的にはこのように訳すこともできる）他、マルコ9：37、38 マタイ21：16などにイエスの子どもへの捉え方についての言及があります。

何人かの学生に“新鮮な刺激を受けた”とも言われましたが、とにかく、こんな授業を長い間“黙認”してくださった農伝の教師方に感謝です。



塩尻アイオナ教会の皆様



筆者

○出合った農伝神学生と

夏期実習を引き受けることになった一人の方がレズビアンでした。彼女は、説教奉仕の最初にカミングアウトされました。教会員はいささかびっくりしたようでしたが、彼女が学習会を開き、それを受けて教会側として協議会を開きました。聖書の女性差別箇所と共に、同性愛者差別箇所なども読み直しあい、お互いに分かりあえるようになって行きます。

その後、赴任先の相談を受けた時、当時はまだ同性愛者を引き受ける教会が少ない状況でしたから、この教会の伝道師になるのは？生活費を自分で稼ぐことを条件にして、との話し合いをしたところ彼女も承諾し、わたしは役員会に提案することになります。

役員会では、謝儀を捻出することのむずかしさや、同性愛者であること自体を受け入れ難いとの発言も出て、時間をかけての議論となりました。一度では結論を得られず、併行して教会協議会をひらくことに。そこでは、謝儀の事さネクリアーできれば、同性愛者であるから拒否することは出来ない「イエス様はそんな差別をなさらないでしょう」と一人の方が口火を切ると、皆さんがそれぞれの言葉で賛意を表現してくれました。一人の方は、住む部屋の提供を申し出てくれました。

わたしは牧師謝儀減額を申し出て、僅かながらも活動費を出すことが出来るということに。話し合いの後に役員会に再提出の結果、招聘案が承認され、総会提案。可決後は、役員会で拒否発言をなさった方も、何かと心配りをされるようになり、うれしいことでした。

が、しかし、当事者である彼女は、同性愛を主張し続けて来た（闘って来た）神学生時代であったため、牧師になるための“学び・心得”が出来ていません。わたしとしては苦手な“教育”をしなければならず、彼女にとってはきつい伝道師時代であったと思います。でも牧師試験には好成績で合格し、三年後、無牧の教会（礼拝常時出席者二人）に赴任する運びとなりました。

赴任して9年。その間統合失調症を発病して1年半の休職をしましたが、増えてきた会員たちと引退牧師によって礼拝が守られました。

今現在、分区、教区の伝道援助を受けて教会形成がなされています。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神である」（Iコリント3：6）に心から感謝。

予告掲示板

2016年早春に、「農伝を支えるチャリティーコンサート」を計画しています。



珍しいバロック古楽器と、教会に奉献されたパイプオルガンによるバロックを中心にしたコンサート（現在交渉中）を計画しています。農伝在校生のソロ演奏も予定し、素敵なコンサートになるよう準備をすすめています。どうぞご期待下さい。



時期：2月～3月の土曜日午後、開催場所：神奈川教区内教会を予定

*準備スタッフ、チラシの配布などご協力いただける方ご連絡をお待ちしています。 農伝後援会

農伝グッズのご案内



農伝風景入りカード



子ども用カード



大人用カード



- ・農伝オリジナルクリスマスカードは如何ですか。（カードは一例です）
- ・プレゼント用グッズも色々揃えています。
- ・お電話でご注文下さい 042-735-5775（学校事務室）



「愛実の会」「いこいの家」「農村伝道神学校」の活動に捧げられました。カード（24種）の一例です。

（作者 山田翠）



2015年度 農村伝道神学校後援会会計報告

2015年9月1日～10月31日 () 内の数字は回数で、金額はその合計です。

後援会献金 (団体)	一色 義子 10,000	金額 245,500	信濃町教会 100,000	記念日他献金(個人)	関田 寛雄 10,000
	稲垣 壬午 5,000		下ノ橋教会 10,000		瀬戸 素子 3,000
* 神奈川教会 30,000	井本 克二 10,000	記念日他献金 (団体)	周船寺教会 3,500	* 杉野 博子 10,000	高島 昭子 2,000
* 復活之キリスト教団	岩高 澄 10,000		宿河原教会 5,000	赤松 礼子 4,000	津村有紀子 5,000
50,000	木田みな子 5,000	S M J 東京 10,000	新丸子教会 5,000	井尻 廣輔 2,000	中野百合子 1,000
* 復活之キリスト徳高教会	小泉 晴子 3,000	秋南教会 10,000	仙台三番丁教会 20,000	井尻美津子 2,000	西川 幸作 5,000
50,000	近藤恵・華子 2,500	池田五月山教会 10,000	大正めぐみ教会 3,000	稲垣 壬午 5,000	林伸吉・誠子 5,000
* 埼玉和光教会 60,000	佐々木 威 10,000	宇部緑橋教会 2,000	茅ヶ崎教会 13,620	岩間美佐子 3,000	福田 雅美 2,000
宇部緑橋教会 2,000	佐治弘志・範子 10,000	大泉ベテル教会 5,000	茅ヶ崎平和教会 12,500	生出 正実 5,000	牧野 信次 10,000
上鳥羽教会 3,000	三宮 千枝 3,000	扇町教会 15,000	千葉教会 30,000	梅崎 浩二 5,000	森 高雄 3,000
軽井沢追分教会 25,000	諏訪 昭子 5,000	大牟田正山町教会 5,000	鶴川シオン幼稚園クロー	榎本 充 5,000	山崎久美子 1,000
埼玉和光教会 60,000	田口 正俊 10,000	小倉日明教会 4,000	パーの会 22,000	大城 朋子 2,000	合計39件
善通寺教会 5,000	竹村 倫子 10,000	小田原教会 33,357	名古屋新生教会 13,470	大城美知信 5,000	金額 176,500
祖師谷教会 5,000	中田正道・長井美歌	片倉教会 5,000	那須塩原教会 10,000	太田 春夫 5,000	ひとつぶ献金
代田教会 10,000	10,000	鎌倉恩寵教会 5,000	野方町教会 20,000	大谷 隼子 10,000	
那須塩原教会 10,000	中山 和子 5,000	上大岡教会 6,000	野田教会 5,000	織田 信行 5,000	
八王寺北教会 25,000	原 誠 5,000	ガリラヤ農園パン献金	東梅田教会 10,000	上地 武 3,000	* 鶴川北教会 50,000
合計13件	樋口 進 5,000	3,250	日野台教会 20,000	川崎 トシ 3,000	生田教会 66,000
金額 335,000	廣野 嗣雄 10,000	軽井沢南教会 3,000	百人町教会 10,000	河原田美哉子 5,000	上大岡教会 15,000
	福本 光子 10,000	川崎戸手教会 6,000	藤沢教会 20,290	小林 利明 3,000	川和教会 21,000
後援会献金 (個人)	町田 直明 3,000	金城教会 10,000	松崎教会 20,000	近藤恵・華子 7,500	東梅田教会 27,500
	水谷カヲル 3,000	熊取教会 10,000	南豆教会 20,000	齊藤 宏 5,000	日野台教会 18,600
* 西村保興子 10,000	水谷スエ・信栄 10,000	久米田教会 5,000	宮古島伝道所 20,000	鷲 美恵子 5,000	まぶね教会 12,200
* 八田満千子 10,000	宗宮 進 3,000	桑名教会 24,880	室町教会 8,000	佐々木迪淳 6,000(2)	横浜二ツ橋教会 20,900
* 柳田 緑映 10,000	村上 和 5,000	小石川明星教会 20,000	横浜菊名教会 50,000	佐治 和子 10,000	合計8件
* 大森 清一 20,000	安永 直美 5,000	埼玉和光教会 60,000	四谷新生教会 10,000	佐藤 智子 5,000	金額 231,200
* 桑野 直義 5,000	山田美知子 5,000	坂下教会 3,000	合計49件	嶋村 和幸 3,000	
* 三宅 洗子 3,000	渡辺 正男 10,000	三本木教会 3,000	金額 733,867	嶋村 純子 3,000	
浅野 直人 5,000	合計34件	三・一教会 14,000		須部 道子 3,000	

*印は、7月に献金を戴いた分についての事務局手違いによる掲載落ちにつき今回報告させて頂きました。申し訳ありませんでした。

前号(102号)にて本多栄一 100,000は本田栄一 100,000の誤りでした。お詫びして訂正致します。

事務局だより

主を待ち望むアドベント、最初のローソク灯り、本格的寒さが迫ります。103号をお届け致しました。1頁の佐々木牧師は1951年度農伝第2回卒業の牧師、園長のご活躍。ウイークデイにお掛けしたお電話の元気な声の後ろでは、園児の皆さんのはじけた声が聞こえ、現役の現場をかいま見せて頂きました。どうぞお元気でご活躍下さい。

2頁の横田幸子牧師に、農伝講師時代を思い起こしていただきました。農伝にかかわる中で先生のテキパキ歯切れの良いやりとりに、農伝には心強い講師が多いことに、頼もしさを感じていました。今回ご無理をお願いし、寄稿頂きました。

前号にて、「一日農伝デー」(日野台教会)についての報告を致しましたが先日、日野台教会の方からメールにて、「後援会の熱い思いが読者の皆様へ届き、また、農伝デーが各地で開催され、応援団が広がることを願っています」との応援メッセージを頂きました。お支えを感謝致します。

2015年10月末までの献金、グッズ売り上げなど収入は、前年度を若干上回る状況を心から感謝致します。どうぞ引き続き熱いご支援をお願い致します。また、農伝を皆様には是非ご紹介下さい。寒さは来年の実りの証し、どうぞご自愛の上お過ごしください。良きクリスマスでありますようお祈り致します。(事務局 古川力也)

2015年度後援会会計報告

2015年4月1日～10月31日現在

献金区分	収入(献金・他)		前年度同期		前年同期比(%)
	2015年度(4月～10月)		件数	金額(円)	
後援会費(団体)	21	681,900	28	478,700	142
〃(個人)	158	1,793,700	127	1,059,000	153
記念日他献金(団体)	56	778,263	63	1,172,345	66
〃(個人)	120	663,500	113	896,500	74
ひとつぶ献金(団体)	23	698,600	30	728,645	95
グッズ		116,050		124,450	93
合計	378	4,732,013	361	4,459,640	106

発行 農村伝道神学校後援会
 会長 島しづ子
 事務局長 古川力也

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024
 TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711
 E-メール: noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ:
<http://www.noden.server-shared.com>
 振替番号 00120-6-24418